

## 「Jネットは何をめざすか」

出席者 内山 貢、岡村博己

澤カツ子、内藤 貢

長谷川千代、松川太賀雄

和久井博 (司会)

司会 本日はJネットの未来構想と云うか十年先、二十年先のJネットのあり方を考えてみたいと思います。でも最初から未来構想と言っても中々難しいでしょうから、とりあえず、色々な選択肢や考えられるアイテムを皆で並べてみませんか。例えば、これまでの「街づくり」に対する反省から新しい試みが提案されていますよね。しかし、街づくりの主体が相変わらず、行政の側にウエイトが大きいことから、首長が変わることに方針を大きく転換せざるを得ないという問題がありますね。だから、Jネットのような団体が市民と組んで恒久的な街づくり

の基幹的な組織になるというのも理想的だと思えますね。それから、通販のような活動で都会と上越を結びつけると言うのも重要だと思えます。日本自動車連盟(JAF)はレスキュー業務が主ですが、通販のウエイトが非常に大きくなっているようですから…。

それではまず、Jネットのこれまでの活動の総括と今後についてどなたかいかがですか。

○Jネットはこれまで会員が千人を超えていることを目標にしており、「千人になれば何かできるぞ」ということで七年目を迎えています。中々目標が実現できない中で、もう一つ上越の応援団として、会員が今住んでいる町からの情報を発信する、あるいは上越の街づくりに代表委員を送って色々な意見を述べるなどの活

動をして来たということですね。併せて、サロンやふるさと交流会などの親睦活動をメインにして来たわけですね。交流会も年一回というこれまでの流れを変えたいという意味で、現地集合の「観桜会」「はす祭り」さらに農業体験としての「田植え」や「稲刈り」と活動の範囲を拡げて来たわけですね。

ただ、一方で、市の職員や市民の方が、Jネットの活動をどこまで認識し、理解されているかという非常にブアーな感じがします。そこをターゲットに七年目の新たなバージョンを考える必要があると思えます。

○私は先ず、今話しのあった会員の増加対策について話したいと思えます。

昔は、夜行列車で上京するなど、東京は遠い地でしたが、今は日帰りの距離になったと思えます。若い方々は遠くへ来たという感覚が薄らいでいるから同郷会に郷愁を感じないのではないかとも思えます。そのことを前提に何か対策がないのかなと思えます。

それから、発会当初入会した知人会員がメリットが少ないからと、翌年辞めてしまった例があります。ですから、メリットを明確にすること、Jネットの会員であることの誇り、名誉を判りやすい形で示す必要があるように思えます。

郷土の発展に寄与するという会員意識の向上には、どうしたらよいだろうかと思えますね。例えば、市の広報に時折「Jネットコーナー」を設けてもらえたいと会員としての貢献が実感として湧くのではないかと思えます。また、幹旋品(推奨品)の売れ筋を調べ、例えばベスト3など「Jネット便り」でお知らせすれば、関心が高まるのではなからうかと思えます。そんなにな売れているものなら自分も宅急便で取り寄せて見たいと思うようになり、これもメリットになると感じます。また、生協のようにまとめ買いで、各人へ配達する方法は出来ないだろうかと。誰がやるか難しいですが…。

以上ですが、会員数の伸び悩みが毎回運営委の議題になっていますが、見方を変えれば、八〇〇名の会員数はかなり大勢が参加しているようにも思えますよね。

司会 うまく、まとめていただきしました。まず、最初の話に関しましては、昔は、中学、高校を卒業して集団就職で上野へやって来た。その方々が大変苦労されて今日の立場を築かれている。そんな中でのふるさと回帰がJネットと良くマッチするわけですが、最近では長男長女社会ですから、上京して東京の大学を卒業しても大半が田舎へ帰ってしまふ。即

ち、Jネットの予備群は激減しているという大変な局面が見えて来ますね。

○ですから、今の会員がJネットにとっても上越市にとっても貴重だと言つてですね。

司会 次にメリットという話がありました。Jネットに入ると面白いか、得をするといったことがあると良いわけですね。それではどんなメリットが考えられるのか議論しましょう。

○Jネットの会員証を見せると市の施設が半額になりますが、中々利用する機会がありませんから大きなメリットにはなっていないですね。

○メリットと言つても二つあって、一つは直接的な経済的メリットであつて、それは、物産を買うと送料が安くなるとか、割引になるということですね。もう一つはふるりの出来事を知ることが出来ることで自分達がふるり回帰ということの癒しということでメリットになるということがあるかどうかですね。

○今でも色々メリットがあると思うけれど、会員はあまり活用していないんだよね。サロンにもあまり参加しないし、パ

スツア一も大変楽しいんでリピータが多けれども、参加する人が限られていますよね。もっと積極的に活用したら良いと思うね。

○人とのふれ合いで言えば、私はJネットに入ってから色々な人と知りあつたし、今でも非常に親しくおつき合ひしています。Jネットのような会は、自分から積極的に行動しないとメリットも小さいことになりす。ただ、若い人と知り合うことが少ないのは問題ですね。

○高田高校は一、七〇〇人の会員が東京支部に居ますが、これを更に増やそうとすると若い人が対象になり非常に大きなエネルギーが必要ですね。北城高校さんも同じではないですか。

○全く同じですね。ある年代から下になるともう無理ですね。精神的な面でのなつかしさというより自分の生活が精一杯で、生活に追われていて同窓会にまで参加する精神的な余裕がないということですね。

もう一つは、今さら「同窓会、などという時代ではないでしょう。」とはつきりおつしやるんですね。自分達で仲よしクラブで食事会をした方が楽しいと言つてですね。情緒的な面を求めてますね。

ライになってる年代が増えているので、会員を拡げるのは非常に難しいですね。

○私もそう思いますね。これから重要なのは団塊の世代ですね。これの一角をうまく取り込めば良いわけですね。でも、どうしたら団塊の世代にスイッチが入るかですね。

○若者といえば、四〇才以下の人達は仕事が目白くないと直ぐに会社を変わる。欲しいものがあれば、車でもヨットでも海外旅行でも直ぐやる。その行動力はすごいですね。海外ツアーの客は老人と若者がほとんどと言いますから。

○私は若者の価値観が異なると言つても、短絡的なメリットだけではなく、「人の役に立つ」といったようなものにも価値観は感じていると思いますよ。

○今、色々なことが税金で行われていますが、将来は人口が減少し、当然、税収も少なくなりますね。だから、自分達でやることはやるようにしないとこれからはダメなんだと思いますが、若い人達はどんな風に思っているのでしょうかね。

○私は、若者にもそういう考え方は現れてくると思いますよ。税金とられるくらいなら自分達でやろうと思うのではないですか。NHKの番組の「お助け隊」を見てると若者が積極的に参加しているし、若い人も捨てたものじやないと思えますね。

○今後に希望を持つて良いのですかね。

司会 ところで、Jネットの会員には色々な能力を持っている人が大勢います。そういう方の力を利用して来ようというアイデアを整備する必要があると思えますが、この点は如何ですか。

○少しはすれますが、会員で商売をやっている人も多いですが、そういう人を毎月の「たより」で積極的に紹介してはどうだろう。特に地方の会員が出てくると、地方へ行った際に寄る楽しみが増えますね。是非やりましょう。

○自薦他薦で商売をやっている人は四百字でまとめてもらえば良いですね。毎月「たより」に出しましょう。

○会員の持つ能力をお互いの了解の上で利用しようということが出来れば良いですね。今後、是非、検討しましょう。

司会 交流会をもっと活性化したいと思いますが、ポイントはその辺にありますか。

○今までのバスツアーはバス代が高く、割高になってしまいが、現地集合のお花見では会費三、〇〇〇円で結構楽しめてしまっわけですね。

○先日の稲刈りも五人で相乗りしましたが、そのようなやり方で、交通費を安くすることがポイントの一つですね。

○池袋か所沢あたりから路線バスが出ていますが、そういうのを団体で利用するのも安く出来る方法じゃないですか。

司会 「おもしろい」「楽しい」ということでは毎月商品を用意して抽選で当たった人あげる等の企画も考えられますよね。

○いいですね。地元の産品を提供してもしっかりもいいですね。

○毎月の「たより」にキーワードを載せてそれを葉書に書いてもらう方法が良いのでは…。

○たまには高額商品も用意して、次号に当選者の写真と喜びの言葉を載せる等というのもいいですね。かなりのインセンティブになると思うね。

○八百人の会員のうち一五%くらいの方が申し込みをして二〇人、商品が六点あれば二十分の一だから、当たる確率は高いよ。

○地元の酒屋さんや米屋さんに協力してもらえば、かなり地元産品の宣伝にもなりますね。

司会 地元産品のJネットを通じての普及も大切な機能と思われませんがネットは送料ですね。

○送料の総額はどの程度になるのですかね。Jネットで運賃負担するというアイデアもあつたと思いますが…。

○そうですね。賛助会員に関しては高い会費をいただいているのだから送料をJネットで負担してもいいですね。

ただ、具体的にはどのように注文するかを考えるといいですね。先日の食の工房は、Jネットの名簿を渡しておき、それを見て、判断してもらったんですがね。

○いずれは「Jネット推奨マーク」を考へてもいいですね。いずれにせよ、そのようなシステムを是非検討しましょう。

司会 先程話のありました市の広報に「Jネットコーナー」を設けてもらう件ですが、これについては如何ですか。

○いいですね。是非、市の方と交渉して二〜三ヶ月毎にJネットの活動報告を載せてもらうことにしましょう。

○それなら、賛助会員の「上越タイムス」にもお願いしてはどうか。上越出身者に関するニュースは、上越市民は興味があると思うし、上越タイムスがそれを取材しようとしても中々困難だから、Jネットが発信してやれば良い。

司会 是非その方向で実現させましょう。次に、Jネットの推奨品の売れ筋ベストテンの公表をお知らせする件ですが、どのように統計データを収集するかが難しそうですね。

○先程のクイズの賞品応募の際に、葉書にアンケートで「上越へ行かれた際に何を土産で買いますか?」といったようなことを集計して、公表するのがいいね。○生協のまとめ買いのようなシステムは

かなり難しそうですね。

司会 まとめ買い等は今後の検討が必要ですね。その他、何かありますか。

○毎月やっているJネットの中の会話のうち、「これは!」と思われるものをいくつか「たより」に載せるとサロンの雰囲気もわかって良いと思います。

○面白い話が時々あるので、良いアイデアだと思ふよ。ところで、一人が二分という時間配分は適当かね。

○現在採用しているタイマーはグッドアイデアですね。

司会 色々な話がありました。上越市がJネットに補助金を出してくれている意味は、上越市の応援団としての上越のためになる活動というのがあると思ふす。この点ではどうでしょうか。

○先程の話にもありましたが、Jネット会員は、単身で上京し、苦勞して、現在の地位を築いて来た人が多いと思ふす。だから、色々な専門家がいます。この人達を先程話のあつた人材のデータベースに登録して、上越市が困った時には、無料という訳にはいかないが、交通費と

宿泊費くらいでお手伝いするという、そんなシステムを考えたら良いのではないかと思いますね。

○色々な人材がいると思いますね。マイスターと呼ばれるような専門家だけではなく、スポーツのインストラクターや元選手で、その人が指導すれば非常に成績が上がるなどということでも期待出来るよね。

○Jネットの中に色々な分化学やチームを作っても良いですね。

○専門家だけではなく色々な趣味を持っている方もいるので、その人達のアイディアも上越に伝えられるといいですね。例えば、上越を「瓢箪の里」にするとか、昔あった「家中梅」をもう一度、各家で作ったり、焼酎のお湯割専用ブランドの梅干しを作るなどというのはどうかな。

○正善寺は斜面という斜面に「茗荷」が植えてあり、年間一億円で稼いでいるという例もあるからね。

司会 そろそろ時間ですので、最後に言いた忘れたことや、気が付いたことを一人ずつお願いします。

○私が上越へ帰ると友人は「帰って来たのかね。」と言う。私は「東京から帰って来る人はその他の観光客以上に地元の商品を買って帰るのだから、最上の観光客が来たと言っことでもっと大切にすべきだ。」と言うのですが、理解してもらえませんね。以前、「会員の里親制度」を募集したけれどダメだったのはその辺の理由と関係がありそうですね。

○上越市内でお金が廻るシステムにしなければダメだと思う。その中にJネットを組み込めば、経済圏が大きくなる。また例えば、上越で年間百台の車椅子を外車屋や鉄工場にそれを作る技術を育てるプロジェクトを作り、Jネットのメンバーが協力するというようなやり方もあるね。

○今、全国的にパソコンが普及しているけれど、プログラムを組む人は皆無に近いですよ。Jネットが、プログラミンの教育、通信教育でも良いと思うが、小中学あるいは高校生を対象に行い、毎年コンテストを行い、優秀なプログラムには豪華賞品を与える。これをJネットが主催する。賞は市長賞、教育委員長賞、日立賞、松下賞、オリンパス賞、S.B賞とスポンサーを集めてくれる良いのだから、費用もそれほどかからない。

○最近、青山や六本木にブラダやヴィットの店が相次いで出店し、女性でいっばいですね。ブランドの強さを感じますね。一本原価八〇〇円のネクタイが一万円〜二万円になる訳だから付加価値が大きいね。上越も良いものが沢山あるんだから、ブランドを育てないといけないね。とりあえず、お酒、お米ですね。

○米と酒以外にも上越には観光の材料が豊富にあるよね。しかし、地元では余り活用されていないですね。前島密や上杉謙信、桜や蓮、寺町などはもつと一体的に整備すべきと思います。これはJネットからも提案したいですね。

○少し主旨が異なりますが、総会の会費を女房や子供を半額にして、女性や老人の参加を歓迎する案はどうかな。また、東京での催し物を色々な視点で行いたいですね。ゴルフも良いし、愛犬を対象に「ペット大集合」などというのも面白いのではないかな。

○Jネット会員の鎮西僧侶に講話をお願いするというのも催し物に入れて良いのでは。徐々にお墓の相談なども出るかも知れませんか。(笑)

司会 どうも長時間ありがとうございました。これからのJネットの活動を考える上で大変貴重な意見が沢山出たと思います。これをもとに今後の活動方針を早急に検討したいと思います。

二十一世紀は「大量生産—大量消費」というこれまでのスタイルは消滅し、物を大量に作り出す大企業というのがなくなってくると思われ、次に来るのは知働社会であり、多くの人が地縁社会で生活するということになると思っています。Jネットはまさに地縁社会ですから、二十一世紀末に向けて大きく育てていきたいですね。(終)